

## ——推薦文——

### 中央アジア史研究の分水嶺と新しい出発点

京都大学名誉教授  
英國学士院客員会員 吉田 豊

京大考古学の水野清一の学生として1960年代アフガニスタンでの発掘で始まった桑山正進先生の研究は、ガンダーラからヒンドゥークシュの南北の遺跡の発掘の現場に軸足を置きながら、文献史料、とりわけ玄奘を始めとする求法僧の記録類を博搜して、遺跡の年代や歴史地理学的な意義を論じることを特徴としている。文字通り他の追随を許さない成果をあげてこられたが、バーミヤーンの仏教遺跡に関する一連の研究はその精髓である。1990年代に入って内戦のアフガニスタンから、大量のバクトリア語文書、ガンダーラ語及び梵語仏典が現れ、出土貨幣も含めてこの地域に関する研究が脚光をあびるようになると、英語でも発信して来られた先生の研究は世界的に注目されるところとなった。この地の歴史や商路についての先生の考え方の有効性が新出資料から確認されたのである。その意味で先生の研究はそれ以前と一線を画す分水嶺であり、現在の研究の確固たる出発点として必読の論考になっている。ただ惜しむらくはいろいろな雑誌や論文集に発表されていて、入手が難しいものもある。このたび欧文も含め先生のこれらの論考が、一括して刊行されることは、日本のみならず世界の学界にとって福音である。

### 国内外の研究者待望の論集

京都大学人文科学研究所長・教授 稲葉 穣

佛教考古学者、中央アジア・南アジア古代史家としての桑山正進先生の令名は、日本よりもむしろ海外に鳴り響いていると言ってよい。古代～中世の中央アジア、北インドの歴史・考古・美術を学ぶ研究者で桑山先生の論文を読んだことがない、という人にはあまり会ったことがない。豊富な発掘調査経験と、人文研東方部という環境の中で蓄えられた幅広い漢籍に関する知見を兼ね備えた研究者は空前の存在だからだろう。先生が人文研を定年退職される際に刊行された英文論集 *Across the Hindukush of the First Millennium* は、非売品だったせいもあり、世界中の研究者から、どうすれば入手できるのかという問い合わせが後を絶たなかった。このたび、半世紀以上におよぶ桑山先生のお仕事がひとつにまとめられ、かつ update された上記英文版もあわせて刊行されるのは、それゆえ国内外の研究者にとってこの上ない朗報である。ただ、できれば専門家以外の方にも読んでいただきたいと願う。優れた歴史家というのがどのような方法で過去と向き合い、歴史を描き出してきたのか、その見事な実例がここにあるからだ。

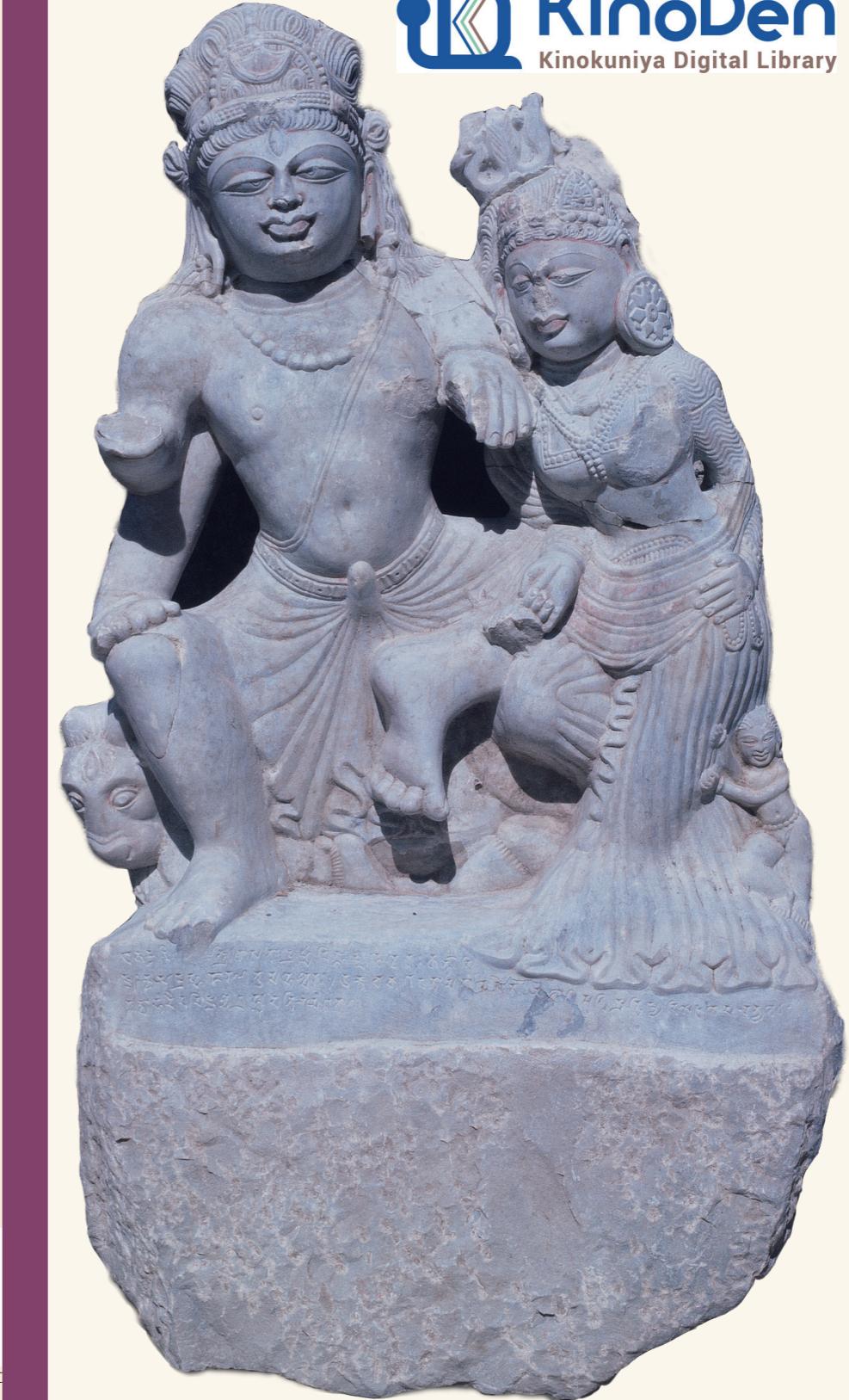
NO	書名 書影	Product ID eISBN	底本 刊行 年月	フォーマット	同時 アクセス1 税込価格	同時 アクセス2 税込価格	同時 アクセス3 税込価格
1	第1巻 異相ガンダーラの仏教 	KP00105719 9784653047919	202208	PDF	54,450円	85,910円	116,160円
2	第2巻 新興バーミヤーンの時代 	KP00105720 9784653047926	202301	PDF	54,450円	85,910円	116,160円
3	第3巻 玄奘三蔵の形而下 	KP00105721 9784653047933	202305	PDF	54,450円	85,910円	116,160円
4	第4巻 COLLECTED ARTICLES 	KP00105722 9784653047940	202410	PDF	50,820円	79,860円	107,690円
5	第1巻～第4巻 セット KS00001559 9784653047902	—	PDF	192,753円	303,831円	410,553円	

紀伊國屋書店

株式会社 臨川書店

〒606-8204 京都市左京区田中下柳町8番地 ☎075-721-7111 FAX075(781)6168  
E-mail kyoto@rinsen.com URL http://www.rinsen.com

KinoDen  
Kinokuniya Digital Library



臨川書店

桑山正進 著

ヒンドゥークシュ南北歴史考古学叢攷

全4巻

## 第I巻 異相ガンダーラの仏教

この叢書の公刊に

### I ガンダーラをどうとらえるか

シャカムニの表象を通して見る——南アジア亜大陸北西地方の歴史考古学研究——  
ガンダーラとその仏教

### II 仏寺の外相

タキシラ=ガンダーラの仏教寺院／タキシラ仏寺の伽藍構成  
仏像出現ごろのタキシラ 層位と編年／ハッダ最近の発掘に関する問題

### III ガンダーラにおけるストゥーパ概念の転換

ストゥーパ方形基台の由来／シャー=ジー=キー=デリー主塔の遷変  
アウグストゥス靈廟と大ストゥーパ——車輪状構造の由来——  
触地印の坐仏を容れたストゥーパ

### IV 漢文資料にあらわれたガンダーラ仏教

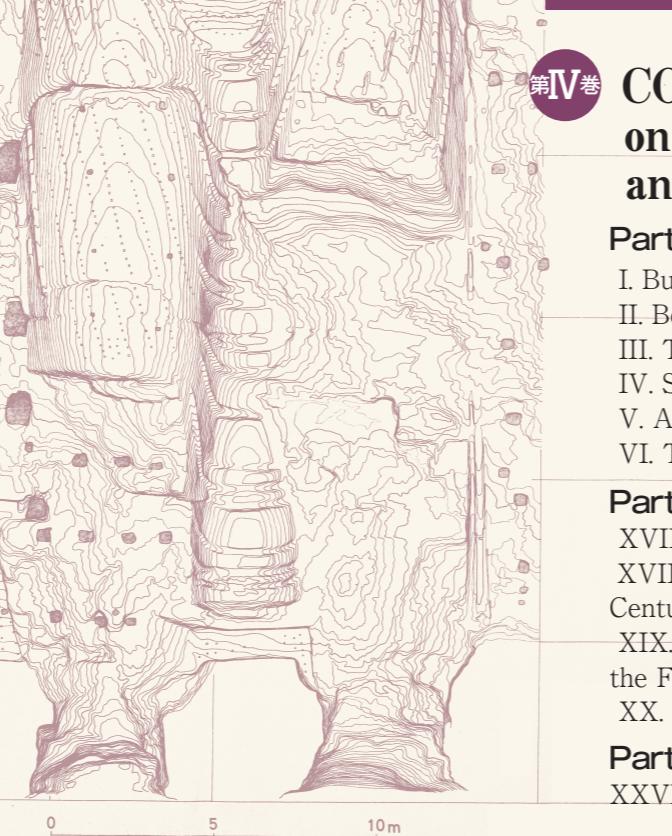
闕賓と鉢鉢／ナレンドラヤシャスと破仏／ウディヤーナ札記

### V ガンダーラから中央アジアへ

ガンダーラからクチャへ／ガンダーラの土器  
ガンダーラにみられる土偶の年代

### VI 大月氏からクシャーンへ

貴霜丘就却の没年／トハーリスターのエフタル、テュルクとその城邑  
トハーラの境域、藍市城と活国都城／バーミヤーンとガンダーラ



## 第II巻 新興バーミヤーンの時代

卷2で考えたこと

### I バーミヤーンの出現

柱礎と壺ヒンドウクシュ／バーミヤーン大仏の出現  
バーミヤーン大仏成立にかかるふたつの道  
バーミヤーンに関する漢文、イスラーム資料／バーミヤーンの城塞遺跡

### II カーブル、ザーブルの登場

漢文資料に基く迦畢試國の編年／葱嶺山と阿路孫山  
6-8世紀Kāpiśī-Kābul-Zābulkの貨幣とその発行者  
カーピシー国札記——馨孽、順達、刹利、曷擷支——

### III タバ・スカンダルとカピシー國の遺跡

タバ・スカンダル第1回発掘調査概報／7世紀におけるベグラームの存立  
ヒンドウクシュ南麓における歴史の空白

### IV カピシーの仏教とヒンドゥー教

大理石ヒンドゥー神像(ヒンドゥー王朝のもの)  
ガネーシャ神像碑銘にみえるカーブル突厥王の編年

### V トハーリスターの発掘

チャカラクテペ遺跡第3次発掘

### 付録 アフガニスタンにおける土の伝統技術

アフガン陶房誌1977／乾燥アジアにおける煉瓦

## 第III巻 玄奘三蔵の形而下

まえがき—千載の一遇

### I 玄奘三蔵の形而下

玄奘三蔵の形而下／インドへの道——玄奘とプラバーカラミトラ  
大唐西域記と求法の背景／玄奘余録——『西域記』『慈恩伝』読後——  
玄奘——その旅の環境——／慧超伝の中天竺王

### II 北魏隋唐のサーサーン系文化

法隆寺四騎獅子狩文錦の制作年代／1956年来出土の唐代金銀器とその編年  
唐代金銀器始原／東方におけるサーサーン式銀貨の再検討  
サーサーン帝冠と北魏初期窟の年代

### III インド文明の理解

インダス文明の都市と構造／インダス文明に関する最近の理解  
インダス文明のあり方／バルチスタン考古記／バヌー考古記

### 付録

中央アジア考古学の発達／考古学調査から見たアフガニスタン  
中央アジア、南アジアの発掘現状

卷3を閉じて

## 桑山正進(くわやま・しょうしん)

1938年東京東京市(現港区)生まれ。京都大学文学部考古学科卒。同大学院博士課程満期退学。同大学文学博士。専門は東洋考古学。86年京都大学人文科学研究所教授、99年所長。2002年定年退官、名誉教授。主な著作に『カーピシー=ガンダーラ史研究』(京都大学人文科学研究所1990)、『慧超往五天竺国伝研究』(編著、京都大学人文科学研究所1992、臨川書店1998)などがある。

組方見本 第I巻、第IV巻より

図説一覧(第I巻)　図説二覧(第IV巻)



図2 第I巻の作図

図3 第IV巻の作図

図4 第I巻の作図

図5 第IV巻の作図

図6 第I巻の作図

図7 第IV巻の作図

図8 第I巻の作図

図9 第IV巻の作図

図10 第I巻の作図

図11 第IV巻の作図

図12 第I巻の作図

図13 第IV巻の作図

図14 第I巻の作図

図15 第IV巻の作図

図16 第I巻の作図

図17 第IV巻の作図

図18 第I巻の作図

図19 第IV巻の作図

図20 第I巻の作図

図21 第IV巻の作図

図22 第I巻の作図

図23 第IV巻の作図

図24 第I巻の作図

図25 第IV巻の作図

図26 第I巻の作図

図27 第IV巻の作図

図28 第I巻の作図

図29 第IV巻の作図

図30 第I巻の作図

図31 第IV巻の作図

図32 第I巻の作図

図33 第IV巻の作図

図34 第I巻の作図

図35 第IV巻の作図

図36 第I巻の作図

図37 第IV巻の作図

図38 第I巻の作図

図39 第IV巻の作図

図40 第I巻の作図

図41 第IV巻の作図

図42 第I巻の作図

図43 第IV巻の作図

図44 第I巻の作図

図45 第IV巻の作図

図46 第I巻の作図

図47 第IV巻の作図

図48 第I巻の作図

図49 第IV巻の作図

図50 第I巻の作図

図51 第IV巻の作図

図52 第I巻の作図

図53 第IV巻の作図

図54 第I巻の作図

図55 第IV巻の作図

図56 第I巻の作図

図57 第IV巻の作図

図58 第I巻の作図

図59 第IV巻の作図

図60 第I巻の作図

図61 第IV巻の作図

図62 第I巻の作図

図63 第IV巻の作図

図64 第I巻の作図

図65 第IV巻の作図

図66 第I巻の作図

図67 第IV巻の作図

図68 第I巻の作図

図69 第IV巻の作図

図70 第I巻の作図

図71 第IV巻の作図

図72 第I巻の作図

図73 第IV巻の作図

図74 第I巻の作図

図75 第IV巻の作図

図76 第I巻の作図

図77 第IV巻の作図

図78 第I巻の作図

図79 第IV巻の作図

図80 第I巻の作図

図81 第IV巻の作図

図82 第I巻の作図

図83 第IV巻の作図

図84 第I巻の作図

図85 第IV巻の作図

図86 第I巻の作図

図87 第IV巻の作図

図88 第I巻の作図

図89 第IV巻の作図

図90 第I巻の作図

図91 第IV巻の作図

図92 第I巻の作図

図93 第IV巻の作図

図94 第I巻の作図

図95 第IV巻の作図

図96 第I巻の作図

図97 第IV巻の作図

図98 第I巻の作図

図99 第IV巻の作図

図100 第I巻の作図

図101 第IV巻の作図

図102 第I巻の作図

図103 第IV巻の作図

図104 第I巻の作図

図105 第IV巻の作図

図106 第I巻の作図

</div